

令和2年度

# 小論文

## (60分)

栄養学部 栄養科学科

解答はすべて解答用紙に記入すること

### 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙を開かないこと。
2. 問題用紙は、表紙を含めて3ページである。
3. 解答用紙は、2枚である。2枚とも解答すること。
4. 受験番号・氏名は、監督者の指示に従って記入すること。
5. 問題用紙の余白等は適宜使用してよい。

# 問題 (その1)

栄養科学部 栄養科学科

プラスチック製品は、軽量で加工しやすく様々な産業界で幅広く活用されています。しかし最近、5 mm以下のマイクロプラスチックによる海洋汚染が問題になっています。図1-1は、世界のプラスチック生産量を産業部門別に示したものです。また、図1-2は、主要国別のプラスチック容器包装の総廃棄量と1人あたりの廃棄量を示したものです。図をよく読んで、以下の設問に答えなさい。

図1-1 世界のプラスチックの産業部門別生産量 (2015)

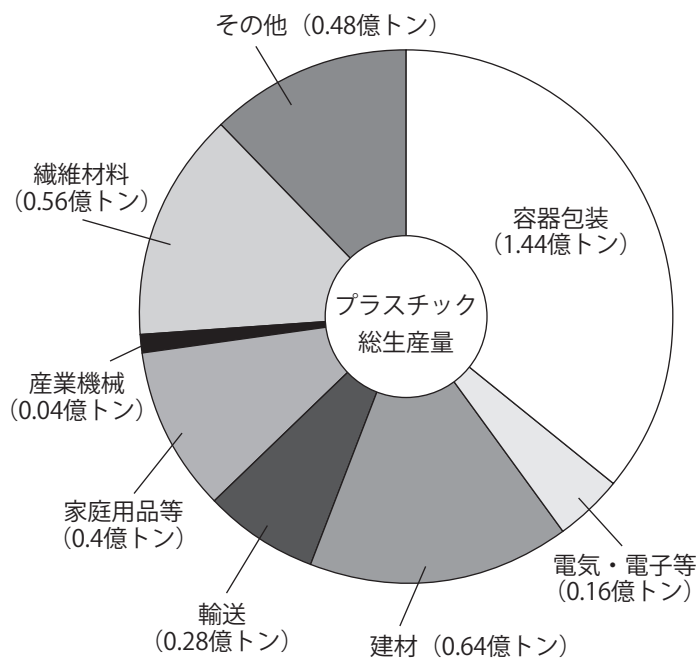
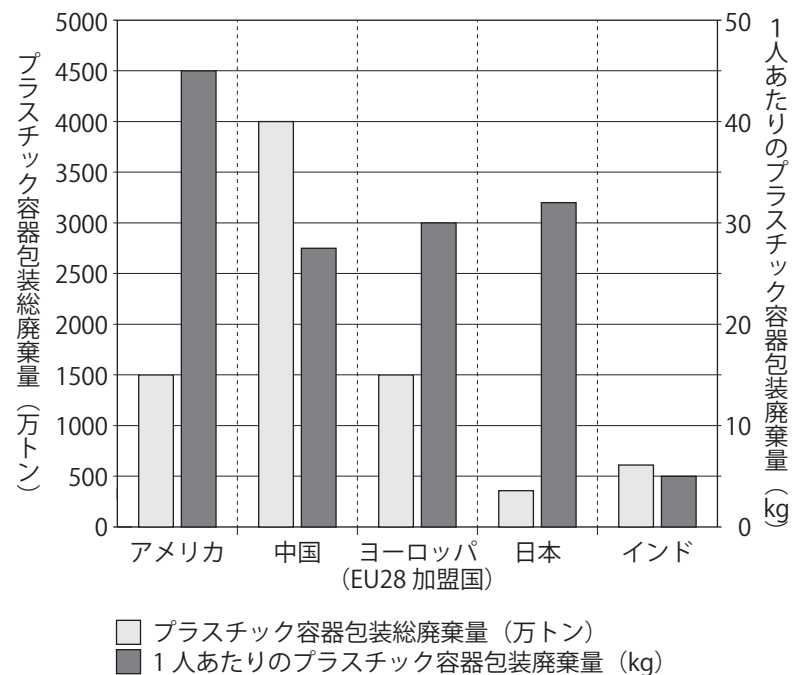


図1-2 主要国別のプラスチック容器包装の廃棄量 (2014)



(資料：UNEP “SINGLE-USE PLASTICS” (2018) より一部改変して転載)

設問1. 図1-1において、2015年のプラスチックの産業部門生産量のうち、容器包装部門はプラスチック総生産量の何パーセント (%) を占めるか、整数で求めなさい。

設問2. 図1-2において、ヨーロッパ (EU28加盟国) の人口は日本の人口の約何倍になるか、次の5つの中から1つを選び、番号で答えなさい。

- ① 1/4倍      ② 1/2倍      ③ 2倍      ④ 4倍      ⑤ 10倍

設問3. 図1-2の1人あたりのプラスチック容器包装の廃棄量を国別に比べると、アメリカ>日本>ヨーロッパ (EU28加盟国) >中国>>インドとなることがわかる。このうち、インドが一番少なくなる要因として考えられることを次の5つの中から2つを選び、番号で答えなさい。

- ① プラスチック工業が発達している      ② 国民1人あたりのGDPが高い  
 ③ 総人口が多い      ④ プラスチック容器包装の規制がある      ⑤ エンゲル係数が高い

設問4. プラスチック製品による海洋汚染により、どのような問題が生じるか。以下のキーワードを全て用いて、180字以内で記述しなさい。

魚やクジラ      消化      マイクロプラスチック      健康被害      食物連鎖

## 問題（その2）

### 栄養科学部 栄養科学科

図2-1は、日本人の高齢者の男性3,526名、女性4,469名を対象として、低栄養傾向の者（BMI：体格指数 $\leq 20 \text{ kg/m}^2$ ）の割合（65歳以上、性・年齢階級別、全国補正值）を示したものです。表2-1は、65歳以上の高齢者人口と被保険者の要介護（要支援）認定者数（性・年齢階級別）を示したものです。それぞれの図表をよく読んで、以下の設問に答えなさい。

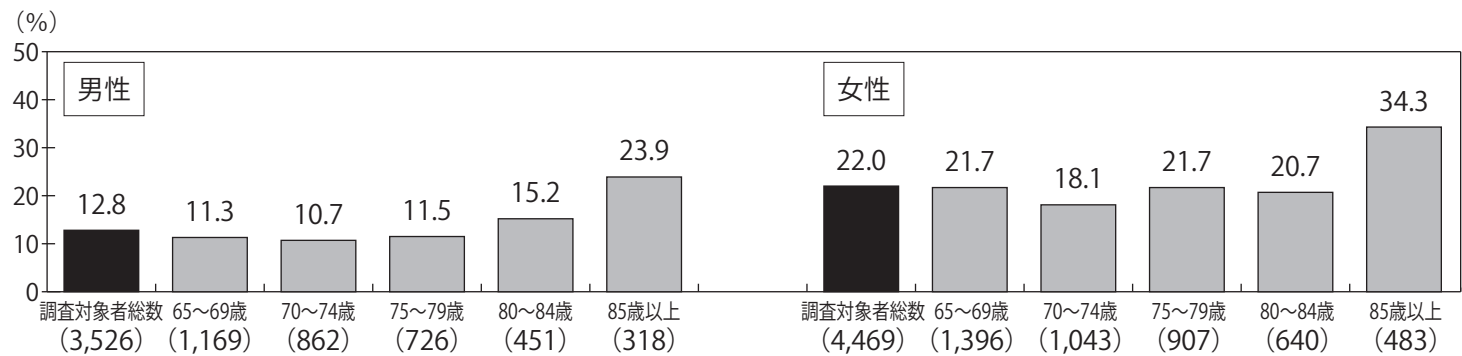
設問1. 図2-1において、誤っている内容を次の5つの文章の中から1つ選び、番号で答えなさい。

- ① 女性は、男性よりも低栄養傾向の者が多い。
- ② 男性において、70～74歳は、低栄養傾向の者の割合が最も低い。
- ③ 男性は、女性よりも、75歳以上の低栄養傾向の者が少ない。
- ④ 女性の低栄養傾向の者の割合は、全ての年齢階級で2割を超えている。
- ⑤ 男女とも、85歳以上で低栄養傾向の者の割合が最も高い。

設問2. 表2-1において、65歳以上75歳未満の男女と75歳以上の男女について、それぞれ、高齢者人口に対する、要介護（1～5）の認定者数の割合を求めなさい（答えは、小数第2位を四捨五入し、小数第1位までとすること）。

設問3. 設問2の解答を踏まえ、まず、年齢及び男女別に特徴をまとめ、その後、要介護に陥る要因として、どのようなことがあげられるか、「低栄養」、「食事」及び「筋肉」のキーワードを全て用いて、180字以内で記述しなさい。

図2-1 高齢者の低栄養傾向の者（BMI：体格指数 $\leq 20 \text{ kg/m}^2$ ）の割合（65歳以上、性・年齢階級別、全国補正值）



※年齢区分の下の（ ）は、調査対象となった人数を示す。また、割合は全国補正值であり、単なる人数比とは異なる。  
 ※低栄養傾向の者（BMI：体格指数 $\leq 20 \text{ kg/m}^2$ ）については、要介護や総死亡リスクが統計学的に有意に高くなるポイントとして示されている。

※ BMI（体格指数）は、体重（kg）÷身長（m）<sup>2</sup>で求められる。

（資料：厚生労働省「平成28年国民健康・栄養調査報告」より一部改変して転載）

表2-1 被保険者の要介護（要支援）認定者数（性・年齢階級別）

性別	年齢階級	高齢者人口 (千人)	被保険者の要介護（要支援）認定者数（千人）							
			要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	総数
男性	65歳以上 75歳未満	8,420	49	48	71	73	50	40	35	366
	75歳以上	6,580	217	182	329	290	215	175	119	1,527
女性	65歳以上 75歳未満	9,260	73	70	70	60	39	35	33	380
	75歳以上	10,330	541	547	770	652	509	498	397	3,914

※表中の要支援または要介護の後ろにつく数字：数字が大きくなるほど日常生活の中で支援または介護を必要とする度合いが大きいことを示している。

※表中の数値は、千人未満を四捨五入しているため、総数に一致しない場合がある。

（資料：内閣府「平成29年版高齢社会白書」、厚生労働省「平成28年度介護保険事業状況報告（年報）」より一部改変して転載）